科目名	現代の社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	私たちが生きている現代社会は、どのように形成され、どんな到達点にあり、どんな課題を抱えているのだろう。授業では、このことを現代日本における労働・貧困・福祉国家・新自由主義・生活等と若者の関連という切り口で考える。高校時代の科目「現代社会」の内容を、大学の学問的枠組みによって再構成し、事象と事象の関係やつながりという見方によって、現代社会の特徴をトータルに把握する。
	到達目標	・近代から現代への社会の転換について、基礎的な知識を持つ。 ・「労働と生活」に現れた日本社会の特徴について理解できる。 ・大学教育を受ける者としての常識的教養である現代社会のキーワードについて、基本的理解と説明ができる。 ・数値データの表を読み取り、その背後にある社会事象を推測し、それを論理的な文章に表現できる。
授業計画	(1) 授業の進め方とイントロダクション―現代社会の特徴を捉える (2) 労働－雇用の多様化と劣化 (3) 貧困－雇用と社会保障の劣化による格差の固定化 (4) 「大人になる基準」の変化と「現代社会で大人になるとは」 (5) 2～4 回のまとめと関連 (6) 資本主義－現代社会の基本的構造として (7) 福祉国家－資本主義のもとでの福祉・生活重視の政治の行方 (8) 新自由主義－市場原理主義と規制緩和の行方 (9) グローバリゼーション－多国籍企業と国内経済の利害不一致が拡大する (10)グローバリゼーション・新自由主義の中での福祉国家の行方 (11)6～10 回のまとめと関連 (12)生活－「豊かさ」の広がりの一方で諸「難民」の発生 (13)家族－「標準的家族」から「多様な家族」へ (14)2～4 回、12,13 回の関連－生活・家族・労働を結びつけて考える (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	授業までに、テキストの該当章を読んでおき、出てきた意味の分からない用語は、辞書等で調べておくこと。
	事後学習	毎回、新聞の「労働」「社会保障」に関連する記事に目を通しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	中西新太郎・蓑輪明子編『キーワードで読む 現代日本社会　第 2 版』旬報社,2013 年,ISBN 9784845113163
	参考文献	森岡孝二編『就活とブラック企業：現代の若者の働き方事情』岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ No805,2011 年. 坂井素思他『格差社会と新自由主義』放送大学教育振興会,2011 年 ｴﾙ･ﾌｨｽｺﾞﾝ『グローバリゼーションとは何か?：まんがで学ぶ世界の経済 ： 多国籍露天商で成りあがれ!』 明石書店, 2005 年,ISBN 9784750321448 大沢真理『今こそ考えたい生活保障のしくみ』岩波ﾌﾞｸﾚｯﾄ No.790,2010 年 牧野カツコ他『国際比較にみる世界の家族と子育て』ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房,2010 年,ISB
成績評価の基準と方法	基準	科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。
	方法	定期筆記試験 80%、①新聞記事提出課題 10%、②毎回のワークシート 10%。
備考	次の２課題の遂行を求める。 ①雇用・社会保障関連の新聞記事を切り抜き、毎回コメントをつけて提出する。 ②定期筆記試験日までに読書紹介レポートを提出していること（作成要領等は授業で指示する）。提出を試験採点の条件とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代社会の病理	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	現代社会は変化の中で様々な問題があらわれています。授業では、そのような「社会の病」を扱う視点と、表面的な現象の背後にある社会・文化構造的な原因に目を向けることで、出来事の裏側を探ることのできるような思考を鍛えることを目指します。
	到達目標	･何が「病理現象」とされるかについての相対的な視点が身につく。 ･報道などで扱われる出来事の裏側の社会的な背景に目を向けて考えることができる。
授業計画	(1) 社会病理という用語の意味するところ (2) 構成的視点で作られる「社会病理」 (3) 社会病理学における諸理論（1）コントロール理論、分化的学習理論 (4) 社会病理学における諸理論（2）ソーシャル・ボンド理論 (5) 社会病理学における諸理論（3）ラベリング論 (6) 犯罪統計の見方（1） (7) 犯罪統計の見方（2） (8) 犯罪統計の見方（3） (9) 「青少年問題」としての社会病理現象（1） (10)「青少年問題」としての社会病理現象（2） (11)現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題（1） (12)現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題（2） (13)現代社会における自殺の背景 (14)ホームレス増加の背景 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodle での課題を遂行することが復習になります。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	鮎川潤 『少年犯罪』 平凡社新書 2001 年 ISBN4-582-85080-4 矢島・丸・山本編 『よくわかる犯罪社会学入門』 学陽書房 2004 年 ISBN4-313-34008-4 ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業で扱った「病理現象」の背景についての理解度を評価基準とします。
	方法	筆記試験 70% 講義中で指定する読書課題 10%、Moodle 上で課題提出 20%の割合で評価を決定します。
備考	「教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本国憲法	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	教員免許状取得希望者は「日本国憲法（2 単位)」必修。ただし法律学科専門科目「憲法Ⅰ・Ⅱ」（合計 4 単位）でも可。	
科目概要	授業内容	① 憲法の概念及び意義　②日本国憲法の制定過程における問題点　③ 日本国憲法の主な内容（主要な憲法判例の解説を含む）
	到達目標	① 憲法（constitution）の意味について理解する ② 日本国憲法の制定過程について理解する ③ 日本国憲法の主な内容について知識を深める（特に主要な憲法判例を知る）
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 規範と事実 (3) 「憲法」(constitution) とはなにか (4) 立憲主義と法の支配 (5) 西洋における近代的憲法の成立 (6) 近代的憲法の日本における受容（大日本帝国憲法の意義） (7) 日本国憲法の制定過程 (8) マッカーサー草案 (9) 統治機構総論 (10)国会・内閣・裁判所 (11)国民の基本権総論 (12)自由権的基本権 (13)社会権的基本権 (14)日本国憲法に関する重要な判例 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	【事前学習】 ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 【自学自習について】 自学自習（事前学習及び事後学習）とは、1 回の講義につき、約 4 時間自分で学習する（予習復習する）ということです。15 回講義があるので、合計約 60 時間となります。 60 時間の学習を、たとえばすべて読書に置き換えると、1 冊読むのに 6 時間かかる本を 10 冊読むということになります。 自学自習についての詳細は講義時間に説明します。
	事後学習	「事前学習」の箇所に記載した通りです。詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	使用教材	講義時間に説明します。
	参考文献	講義時間に説明します。
成績評価の基準と方法	基準	大卒程度公務員試験の教養試験レベルの内容理解に達しているかどうかを評価の基準とする。
	方法	講義の内容理解に関する確認 20%、試験結果 80%
備考	定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験を受けることができない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代社会と法	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	法学の基本的事項を講義します。
	到達目標	法学の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 刑法の基礎１ (2) 刑法の基礎２ (3) 刑事訴訟法の基礎１　(1)、(2)の小テスト (4) 刑事訴訟法の基礎２ (5) 製造物責任法、民法の基礎１　(3)、(4)の小テスト (6) 民法の基礎２、特定商取引法 (7) 不法行為法の基礎　(5)、(6)の小テスト (8) 契約法の基礎１ (9) 契約法の基礎２ (10)民事訴訟法の基礎１　(7)～(9)の小テスト (11)民事訴訟法の基礎２ (12)家族法の基礎１ (13)家族法の基礎２　(10)～(12)の小テスト (14)統治機構の基礎 (15)基本的人権の基礎	
自学自習	事前学習	・参考文献の該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の最初の 15 分間、小テストを行います（２～３回おきに実施)。 ・小テストおよび期末試験に向けてプリント等を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを使用します。
	参考文献	松井茂記・松宮孝明・曽野裕夫『はじめての法律学（第４版)』有斐閣　2014 年　ISBN 9784641220225
成績評価の基準と方法	基準	法学の基本的事項を理解している場合に合格とします。※出席が全受講時数の３分の２に満たない者には単位を付与しない（履修規程 12 条)。
	方法	平常点（小テスト８点×5 回＋読書レポート 10 点）50 点＋期末試験 50 点で評価します。
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とします。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代社会と政治	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	日本の政治と一口に言っても、政治家と官僚の関係、内閣と与党の関係、衆議院と参議院の関係、無党派層の出現と投票行動の変化など、さまざまな論点があります。講義では、日本の政治に関するこれまでの研究を参照しつつ、問題点を考えていきます。社会科学をはじめて学ぶ学生にも理解できるよう、できるだけ分かりやすい講義を心がけます。
	到達目標	よくテレビなどで「もっと分かりやすい政治をしてほしい」と言う人を見かけます。しかし米国のリンドブロムは著書で、民主制では政治家の数が多く、この複雑性は特定の支配者に責任を負わせることを困難にすると指摘しています。彼によれば、民主的な社会では政治はそもそも分かりにくいもののようです。現代の政治は複雑であることを理解した上で、粘り強く考えていけるようになるのが、講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 政策による選挙は可能か？① (3) 政策による選挙は可能か？② (4) 政党と無党派層 (5) 日本の選挙制度① (6) 日本の選挙制度② (7) 政党の理論① (8) 政党の理論② (9) 日本の政党① (10)日本の政党② (11)マスコミと政治① (12)マスコミと政治② (13)小さな政府、大きな政府① (14)小さな政府、大きな政府② (15)結論	
自学自習	事前学習	教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	使用教材	初回の講義で指示します。
	参考文献	伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め（第３版）』有斐閣、2009 年 北山俊哉､真渕勝､久米郁男『はじめて出会う政治学』有斐閣､2003 年 川出良枝、谷口将紀編『政治学』有斐閣、2012 年 久米郁男ほか著『政治学』有斐閣、2003 年 堀江湛、岡沢憲芙編『現代政治学（第２版）』法学書院、2002 年 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識（第３版）』一藝社、2014 年
成績評価の基準と方法	基準	講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。
	方法	試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。
備考	本講義は、「読書の必修化」の対象科目です。詳細については、講義中に指示します。なお、講義中に私語をする学生の受講は、認めません。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代社会と経済	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	現代経済社会が抱えている諸問題を経済学的視点から分析します。
	到達目標	日本経済新聞の記事を理解し、次にどんなことが起きるのか予測できる力を養います。
授業計画	(1) Ⅰ 日本経済の過去　明治～第二次大戦 (2) 戦後～バブル崩壊 (3) 失われた 20 年 (4) Ⅱ 日本経済の現状　アベノミクスの分析 (5) TPP 問題 (6) 農業問題 (7) エネルギー問題 (8) 社会保障と税の一体化 (9) 中間テスト (10)Ⅲ 日本経済の将来　国境を越えるマネー (11)国境を越える企業 (12)Ⅳ 日本経済の未来　小さな政府か大きな政府 (13)日本の選挙制度 (14)地方分権の確立 (15)Ⅴ 日本経済のあるべき姿	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	・総合評価の結果、概ね６割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 ・上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	中間試験 40 点、期末試験 60 点とします。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代の世界と歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	現代世界を形作ってきた第二次世界大戦後から現在までの世界史を概観する。
	到達目標	現代世界で起こっている出来事の歴史的背景について大まかに説明できるようになる。
授業計画	(1) 導入－20 世紀とはどのような時代であったか (2) 第二次世界大戦とヨーロッパ分断（１） (3) 第二次世界大戦とヨーロッパ分断（２） (4) パクス・アメリカーナの時代－戦後国際秩序構想と核兵器 (5) ドイツ問題と東西冷戦の開始 (6) パレスチナ問題の起源－アラブ世界とイスラエル（１） (7) パレスチナ問題の起源－アラブ世界とイスラエル（２） (8) 中華人民共和国の成立と台湾（１） (9) 中華人民共和国の成立と台湾（２） (10)朝鮮戦争とサンフランシスコ講和 (11)アジアの脱植民地化と第三世界 (12)「雪解け」とキューバ危機 (13)「地すべり」－ヴェトナム戦争とアフガニスタン侵攻 (14)「歴史の終わり」？－冷戦の終結 (15)地域紛争と「文明の衝突」？－冷戦後の世界	
自学自習	事前学習	・新聞の国際面に目を通しておくこと。テレビのニュースを見ておくこと。 ・前回配布されたプリント、資料を見直して、流れを理解しておくこと。
	事後学習	・授業中に配布したプリントを見直し、わからないことは辞書や参考資料で調べたり、教員に聞くなどして理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	田中明彦・中西寛編『新国際政治経済の基礎知識』（有斐閣　2004 年）他、授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	現代史に関する基本的な事項と現代社会への影響を理解しており、それに対する自らの考えを説明できておれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験が 60%、受講態度を 40%とする。受講態度は時折実施する小テストの結果や感想の提出状況で評価する。
備考	定期試験までに読書課題を提出していない学生は、試験を受けることができない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国際社会と人権	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	教養科目 2 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	―	
科目概要	授業内容	21 世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	現代においては、国内社会の他に国際社会も存在することが理解できる。国際問題の理解が容易になる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 国連憲章 (3) 植民地人民の自決権 (4) 国民の自決権 (5) 植民地独立としてのナミビア問題 (6) 植民地独立としての東チモール問題 (7) 植民地独立としての西パプア問題 (8) 植民地分裂としての太平洋諸島問題 (9) 国民による政府変更としての南アフリカ問題 (10)国家合併としてのザンジバル・タンガニーカ問題 (11)分離独立としてのビアフラ問題 (12)自決権の主体 (13)自決権と自衛権 (14)自決権の歴史的役割 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4 回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	中野進『国際法上の自決権[増訂新版](普及版)』信山社 2006 年　443407735X
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	出席しない者は不合格とする。
	方法	テスト（80%）、レポートなど（20%）
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	生涯教育	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	「学ぶ」ということの意味を考えながら、生涯教育・生涯学習の内容・方法・環境・問題について解説する。そして、生涯教育・生涯学習の観点から、これまではどのような状態だったか、これからの人生をどう歩むのか、自分自身を見つめ直してもらう。
	到達目標	①生涯教育・生涯学習に関する基礎知識を身に付ける。 ②豊かな人生とはどのようなものか、大学生はどのような時期か、社会を逞しく生き抜くにはどのような力が必要か等、生涯における人間形成と自己について考える習慣をつける。
授業計画	(1) なぜ学ぶのか (2) 生涯学習の概念と生涯教育の捉え方 (3) 生涯の各時期における学習課題 (4) 生涯設計と大学生活 (5) おとなの学びと学習方法 (6) 学習成果の評価と活用 (7) 生涯学習社会における学校・家庭・職場・地域 (8) 社会教育・生涯学習政策の歴史的展開 (9) 生涯学習の施設 (10)生涯学習の団体と人的支援 (11)生涯学習の現代的課題 (12)生涯学習論と学習権 (13)世界の生涯学習 (14)生涯学習のネットワーク (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・参考文献と毎回のレジュメをもとに、生涯学習社会において自分はどのように過ごしていくのか考察しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	・関口礼子他著『新しい時代の生涯学習』有斐閣　2002 年 ・堀薫夫・三輪健二編著『生涯学習と自己実現』放送大学教育振興会　2006 年 ほか、適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	毎時、積極的にコメントを記入して、自分で考え実践する姿勢を示し、定期試験で基礎知識の習得を確認できた場合に合格とする。
	方法	出席態度 45%、コメント 15%、テスト 40%。
備考	・定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	開発教育	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	地球社会における支配・従属関係や不公平や叫ばれて久しい。本授業では、なぜこのような問題（一般に「南北問題」といわれる）が起こるのか、それは私たちの生活とどのように関わりがあるのか、問題を解決するために私たちに何ができるのかを考える。
	到達目標	世界の格差問題の現状とその原因を理解する。 私たちの生活と地球上の問題とのつながりを理解する。
授業計画	(1) 南北格差と貧困問題 (2) 貧しさとは何か、豊かさとは・・ (3) バナナはなぜ安いか (4) バナナ植民地 (5) 公正な貿易「フェアトレード」 (6) なぜ世界には多くの子どもが働いているのか (1) (7) 同 (2) (8) 原子力発電問題をグローバルに見てみると (9) 世界と日本のエネルギー開発のこれから (10)開発とは何かー経済開発から持続可能な開発へー (11)国際開発援助－ODA (12)青年海外協力隊 (13)国際開発「援助」から、「協力」「共同」へーNGO (14)開発教育の歴史と意義 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	田中治彦『開発教育』学文社、2008 年、開発教育協会年報『開発教育』他、授業中に紹介する
成績評価の基準と方法	基準	南北格差の現状とその原因を理解しまとめることができる。問題解決のための自分なりの見解を表現することができる。
	方法	授業中に課す小レポート 20 点、読書レポート 20 点、最終試験 60 点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	高齢者と社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	①高齢者人口の絶対的な多さが政治・経済・社会・文化に及ぼすインパクトを押さえる。②高齢社会に「老いる」ことの高齢者にとっての意味や、「誰でもその生き方を模索し、老いや死を迎える」ことを考える。③真の豊かさ、生き甲斐、優しさとは何かを自らの問題として考え、社会人として高齢者を理解し、その社会に寄与することのできる態度を考える。
	到達目標	・高齢者問題を通して日本社会の構造を理解できる。 ・日本の「高齢社会から超高齢社会へ」の状況について、大学生らしい説明ができる。 ・高齢者問題が学生にも身近な問題であることの説明ができる。 ・ワークショップにより、コミュニケーション力の重要性を実感する。
授業計画	(1) イントロダクション―急増する高齢人口・急速に進む人口高齢化 (2) 何が高齢社会化を可能にしたか―高齢社会への道のりとその背景 (3) 高齢社会の文化的特徴―「若さと生の賛美」から「生」の意味を問い直す文化へ (4) 「高齢者」とはどのような人か―「老化」とは・「老い」とは (5) 高齢者固有のパーソナリティはあるか？ (6) 「私」の行方―認知症高齢者のこころ (7) 高齢者はどこで誰と暮らしているかー高齢者と家族・近隣関係の特徴 (8) 高齢者の生活史は社会構造を反映①―高齢期に拡大する健康・経済・社会関係の格差 (9) 高齢者の生活史は社会構造を反映②―高齢者問題は「女性問題」 (10)働く高齢者 (11)消費者としての高齢者の登場 (12)高齢者も世代交代する (13)高齢者問題の「当事者組織」の活動が社会を動かす (14)高齢社会は豊かな社会か？貧しい社会か？ (15)総まとめとワークショップーKJ 法による「高齢者問題」の見取り図作成	
自学自習	事前学習	毎回、新聞・TV での高齢者関連のニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	授業に出てきた用語や概念、取り上げた社会事象については、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。
	参考文献	大井玄『「痴呆老人」は何を見ているか』新潮新書,2008 年,ISBN 9784106102486 河畠修『高齢者の現代史』明石書店,2001 年, ISBN 9784750314754 沖藤典子『介護保険は老いを守るか』岩波新書,2010 年,ISBN 9784004312314 小橋　賢『老いの歌：新しく生きる時間へ』岩波新書,2011 年,ISBN 9784004313274 袖井孝子『高齢者は社会的弱者なのか ： 今こそ求められる「老いのプラン」』ミネルヴァ書房,2009 年,ISBN 97846230
成績評価の基準と方法	基準	科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。
	方法	定期筆記試験 80%、①新聞記事切抜提出課題 10%、②ワークショップ参加課題 10%。
備考	次の２課題の遂行を求める。 ①高齢者に関連する新聞記事を、毎回コメントをつけて提出する。 ②定期筆記試験日までに読書紹介レポートを提出していること（提出を試験採点の条件とする）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	障害者と福祉	
担当者	佐々木 美智子 / SASAKI, Michiko	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	日本は国連の「障害者権利条約」批准により新たな歴史をスタートさせました。これまでの歴史も振り返りながら、障害のある人々と共同して権利を保障する福祉のあり方を学びます。
	到達目標	学習者は、障害のある人々の尊厳と権利がうちたてられてきた歴史と現状、それがすべての人々の権利保障と深く関連していることを毎回のテーマごとに理解し、各自の問題意識を深めてレポートにまとめる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 障害のある人々はどう生きてきたか～その１ (3) 障害のある人々はどう生きてきたか～その２ (4) 学齢期の発達保障 (5) 乳幼児期の発達保障 (6) 青年・成人期の発達保障 (7) 支援費制度から障害者自立支援法へ (8) 東日本大震災と障害のある人々 (9) 障害者総合福祉法の骨格に関する提言、改正障害者基本法 (10)障害者総合支援法 (11)国連「障害者の権利条約」 (12)障害者差別禁止法、障害者虐待防止法 (13)高齢者介護と障害者福祉 (14)21 世紀の展望、出生前診断等 (15)まとめと終講レポート提出	
自学自習	事前学習	テキストや参考資料を前もって読んでおくこと。
	事後学習	毎回提供するプリント、返却する感想文を再読すること。
使用教材・参考文献	使用教材	日本障害者協議会編・藤井克徳著『私たち抜きに私たちのことを決めないで　Nothing About Us Without Us 障害者権利条約の軌跡と本質』（やどかり出版、2014）ISBN978-4-904185-27-8
	参考文献	田中昌人著『障害のある人びとと創る人間教育』(大月書店、2003) ISBN4-272-41149-7
成績評価の基準と方法	基準	毎回のテーマ内容を理解し、新聞記事学習等の課題を遂行して、自らテーマを設定した終講レポートにまとめたものは合格とします。
	方法	平常点（50 点）、終講レポート（50 点）の総合評価とする。
備考	教員が指示する「読書」課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	現代社会とジェンダー	
担当者	佐々木 美智子 / SASAKI, Michiko	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	性の生物学的側面を指す sex と区別し、社会・文化的側面を重視する概念ｇｅｎｄｅｒが、21 世紀社会がより公正で持続可能なあり方で発展するために重要であることを、歴史的にまた様々なテーマごとに学ぶ。
	到達目標	学習者は、性による差別が歴史的にどのように問題となり、克服されてきたかを理解し、現代社会の新たな課題とその解決の道を、国内外の様々なとりくみに学びながら主体的に考え、意見をまとめる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) ジェンダー概念の登場の歴史 (3) 鹿児島の家族の歴史～西郷隆盛に見る (4) 日本国憲法とジェンダー日本国憲法とジェンダー (5) 日本の女性運動 (6) 国連「女性差別撤廃条約」 (7) 「男女共同参画社会基本法」 (8) 「鹿児島県男女共同参画基本計画」 (9) 現代の課題～子育て支援 (10)現代の課題～教育 (11)現代の課題～労働・貧困 (12)現代の課題～介護 (13)現代の課題～国際的問題 (14)図書館調べ学習 (15)まとめと終講レポート提出	
自学自習	事前学習	使用教材・参考文献を前もって読んでおくこと。各自の自主的情報収集に期待する。
	事後学習	毎回の授業プリントや返却された感想文を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	竹信三恵子『家事労働ハラスメント』(岩波新書、2013) ISBN978-4-00-431449-3
	参考文献	OECD 編著・濱田久美子訳『OECD ジェンダー白書』(明石書店、2014) ISBN978-4-7503-3972-6　山下泰子他『ジェンダー六法』【信山社、2011) ISBN978-4-7972-5931-5
成績評価の基準と方法	基準	毎回のテーマごとの理解、および自主的な学習やグループワークへの参加、レポート作成によって合格とみなします。
	方法	毎回受講感想文を提出していただき、新聞記事学習や図書館調べ学習、終講レポートと合わせて総合評価する（平常点 50 点、終講レポート 50 点)。
備考	教員が指示する「読書」課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	税のしくみ	
担当者	井上 隆 / INOUE, Takashi	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	国税、地方税の概要・趣旨等を学習する。
	到達目標	国税、地方税の概要・趣旨等を学習することで、各税の存在意義等について理解を深める。
授業計画	(1) 序論、税法総論 (2) 税法の法源、税法の解釈と適用、納税義務 (3) 納税義務の消滅、不服審査及び訴訟、租税刑法 (4) 中間テスト（１） (5) 所得税法（１） (6) 所得税法（２） (7) 相続税法 (8) 法人税法（１） (9) 法人税法（２） (10)法人税法（３） (11)中間テスト（２） (12)消費税法 (13)地方税法 (14)国際課税 (15)中間テスト（３）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義で明らかになったキーワードを基に使用教材を再読すること。
使用教材・参考文献	使用教材	図子善信著　税法概論[11 訂版]　2014 年　大蔵財務協会
	参考文献	金子　宏著　租税法第 19 版　2014 年　弘文堂
成績評価の基準と方法	基準	国税、地方税の概要・趣旨等を習得した者を合格とする。
	方法	受講態度 50%、試験結果 50%
備考	定期試験において、使用教材を読書していないと回答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	新聞で読み解く現代	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義 / ２単位 / １年次	
	―	
科目概要	授業内容	就職活動では新聞記事について問われることが多々ある。そこでは単なる知識が問われているのではなく、社会の出来事について、どのように考え、どのように表現するかが問われている。先ず、活字媒体の新聞を読み、記事内容を理解する。時事用語の解説や、現役の新聞社員による講義も交える。
	到達目標	・新聞記事を通して地域社会の出来事に興味を持てる。 ・新聞記事に出ている基本的な用語を理解できる。 ・新聞記事の内容を自分で調べて概要を記述し、第三者に説明できる様になる。
授業計画	(1) オリエンテーション　講義の進め方 (2) 新聞の構成　　南日本新聞社 (3) 新聞を楽しく読む　　南日本新聞社 (4) 記事を要約する (5) 発表 (6) 南日本新聞社員の講話～事件は現場で起こっている (7) 新聞記事から描かれる現在の社会制度　南日本新聞社 (8) 自分でテーマを探して要約する (9) 発表 (10)南日本新聞社員の講話～現場から社会を見る (11)地域経済と住民との関わり　南日本新聞社 (12)記事を要約する (13)発表 (14)プレゼンテーション (15)プレゼンテーション	
自学自習	事前学習	・新聞を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	「南日本新聞」を主として教材とする。適宜全国紙（日経新聞等）も取り上げる。
	参考文献	講義中に指示する。
成績評価の基準と方法	基準	新聞記事から題材を選択して、第三者に説明できるものを合格とする
	方法	レポート・小テストの内容 80%、受講態度 20%
備考	就職活動に適した内容なので３年生も履修して欲しい。読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ボランティア企画実習	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 後期 / 講義・実習 / ２単位 / ２年次	
	―	
科目概要	授業内容	本講では，地域におけるボランティア活動に関わる，社会的背景，心理的問題について解説する。それを踏まえて、グループによるボランティア活動の企画・実施に取り組む。
	到達目標	鹿児島の地域課題について理解を深める。また，地域課題を解決するための具体的な方法を考え，実践する過程で，地域の一員としての自覚を高めるとともに，問題解決に不可欠な企画力およびコミュニケーションやリーダーシップの技術を高める。
授業計画	(1) ボランティア活動を取り巻く社会的背景 (2) 鹿児島におけるボランティア活動の実際 (3) ボランティア団体へのインタビュー計画(1) (4) ボランティア団体へのインタビュー計画(2) (5) ボランティア団体へのインタビュー成果プレゼン (6) ボランティア活動計画（1） (7) ボランティア活動計画（2） (8) ボランティア活動計画（3） (9) ボランティア活動準備（1） (10)ボランティア活動準備（2） (11)ボランティア活動準備（3） (12)ボランティア活動準備（4） (13)ボランティア活動報告作成（1） (14)ボランティア活動報告作成（2） (15)ボランティア活動報告プレゼン	
自学自習	事前学習	ボランティア活動には社会的な責任が伴うので、入念な計画・準備を心がけること。
	事後学習	ボランティア活動の実施過程で、気づいた課題を文章化し、今後の展開に活かすこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	安藤雄太『ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房
成績評価の基準と方法	基準	グループでのボランティア活動において、自らの役割を明瞭に認識し、いかなる貢献をし、何を学んだかを言語化できるだけの活動成果を上げたものを合格とする。
	方法	読書レポート（10%）、ボランティア活動計画（10%）、ボランティア活動実績（80%）
備考	ボランティア団体へのインタビューや実習活動は授業時間外に行います。授業時間には活動計画の作成や、活動準備を行います。読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	まちづくり企画実習	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	教養科目２群 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / ２単位 / ２年次	
	―	
科目概要	授業内容	この授業では地域調査法について学び、実際の地域においてこれを実践し、受講者間で協議をしながらまちづくりの方法について考え、プレゼンテーションを行います。
	到達目標	①人と協力して調査を行うコミュニケーション能力を養い、②地域の問題を理解し、対策を考えていける問題解決力を伸ばし、③自らの考えを発信していけるプレゼンテーション能力を身につけることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地域調査法Ⅰ (3) 事前調査① (4) 事前調査② (5) 事前調査結果協議 (6) 地域調査法Ⅱ (7) 聞き取り調査① (8) 聞き取り調査② (9) 聞き取り調査③ (10)聞き取り調査結果協議 (11)プレゼンテーション準備① (12)プレゼンテーション準備② (13)プレゼンテーション (14)プレゼンテーションの改善協議 (15)最終プレゼンテーション	
自学自習	事前学習	・地域に関する情報を検索しておくこと。
	事後学習	・他の受講者とディスカッションをしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	参考文献は特に指定しない。
成績評価の基準と方法	基準	地域のことを理解し、調査を行い、プレゼンテーションができることを基準とします。
	方法	受講態度 20%、調査参加 30%、プレゼンテーション 50%
備考	実習科目のため、授業時間外に調査活動を行う必要があります。 読書レポートの内容を成績評価の対象とします。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル